CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Okayama University Scientific Achievement Repository

氏名	三　村　秀　文
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３８６８号
学位授与の日付	平成１５年９月３０日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Percutaneous Sclerotherapy for Venous Malformations Using Polidocanol under Fluoroscopy （静脈奇形に対するポリドカノールを用いたX線透視下経皮的硬化療法）
論文審査委員	教授　佐野　俊二　教授　大江　透　教授　森田　潔

学位論文内容の要旨

この研究の目的は四肢・頭頚部の静脈奇形に対する X 線透視下のポリドカノールを用いた硬化療法の安全性、有効性を評価することである。

治療の対象は静脈奇形 18 例のうち治療が困難であった 2 例を除く 16 例。このうち 1 例は治療できず、1 例はフォローアップできなかった。用いた硬化剤は 1-3%ポリドカノールで、9-450mg（平均 156mg）使用し、1-3 回（平均 1.4 回）のセッションの硬化療法を施行した。フォローアップできた 14 例のうち、疼痛が主訴であったのは 11 例で、治療により疼痛が消失したのは 6 例、改善したのは 4 例、不変は 1 例。美容目的であった 2 例のうち、1 例で腫瘤は消失し、1 例で治療した部位は著明に縮小。口腔内出血を主訴とした 1 例で症状は消失。合併症として重篤なものはなかった。

静脈奇形に対するポリドカノールを用いた硬化療法は安全かつ効果的でしかも繰り返し施行できる治療法である。

論文審査結果の要旨

本研究は、静脈奇形に対して透視をガイドとしたポリドカノールによる硬化療法について研究したものである。従来、外科的治療を要したこの疾患に対し、ポリドカノールを用いた硬化療法の安全性、有効性を初めて示したもので、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。